

授業科目名	企業メセナ論	担当教員 小林 瑠音			
必修の区分	選択				
単位数	2 単位				
授業の方法	講義				
開講年次	3年 第1クオーター				
講義内容	<p>企業メセナとは、企業による短期的な経済的見返りを求めるない芸術文化への支援活動であるが、その意義や形態は時流に合わせて多様な変化を遂げてきた。芸術文化はいかに社会のイノベーションに寄与し、経済の活性化に貢献することができるのだろうか。</p> <p>本講義では、企業メセナの歴史および具体的な形態と事例を学ぶとともに、今日的な課題について考察する。また、日本において企業メセナの礎を築いてきた代表的な実業家の思想や活動及び海外の事例を概観する。ここでは対象をいわゆる芸術領域（演劇、音楽、舞踊、美術など）には限定せず、デザインやものづくり、生活文化や郷土芸能にまで広げ、芸術文化と経済と地域社会の関係を、人間の創造性の観点から多角的に考察する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業メセナについて、その語源と歴史的変遷について理解する。 ・企業メセナの形態と国内外の事例について理解する。 ・日本において企業メセナの礎を築いてきた実業家について、その思想や活動実績を理解する。 ・企業メセナが抱える今日的課題について概要を説明し、自分の見解を述べることができる。 				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 企業メセナ前史：「パトロネージュ」「三方よし」「企業の社会的責任」(CSR から SRI へ) 3. 企業メセナ協議会①：理念、実態、寄附金控除制度 4. 企業メセナ協議会②：企業間のネットワーク形成 5. 実業家に学ぶ①小林一三（阪急電鉄）：宝塚歌劇団 6. 実業家に学ぶ②佐治敬三（サントリー）：コンサートホール、美術館 7. 実業家に学ぶ③堤清二（西武）：PARCO 劇場、セゾン文化財団 8. 実業家に学ぶ④：絵画蒐集と美術館一松方幸次郎（川崎重工業）、石橋正二郎（ブリヂストン）、大原孫三郎・總一郎（クラレ）、福原義春（資生堂） 9. 新聞社と百貨店：マスコミ主催のブロックバスター展、複合文化施設の時代 10. 企業系アワードと地域密着型芸術祭 11. 海外事例：フランスのADMICAL、アメリカのBCA、イギリスのABSA 12. 最終レポート作成 				
事前・事後学習	各回の授業内で適宜指示する。				

テキスト	各回の授業において資料を配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・企業メセナ協議会 website 「メセナライブラリー」「メセナアーカイブ」 ・加藤種男 (2018) 『芸術文化の投資効果 メセナと創造経済』水曜社 ・高階秀爾 (1997) 『芸術のパトロンたち』岩波書店 ・神山彰編 (2018) 『興行とパトロン 近代日本演劇の記憶と文化』森話社 ・古賀太 (2020) 『美術展の不都合な真実』新潮社 ・田中裕二 (2021) 『企業と美術 近代日本の美術振興と芸術支援』法政大学出版 ・開高健・山口瞳『やってみなはれ みとくんなはれ』新潮社、2003
成績評価の基準	授業内での発言(25%)、各回小レポート(25%)、最終レポート(50%)
履修上の注意 履修要件	特になし
実践的教育	該当しない
備考欄	定員 50 名を超えた場合は、抽選を実施する。